

第26回釜山国際映画祭 Nippon Connection Film Festival 2022 10th Whistleblower Summit & Film Festival 16th CAMERA JAPAN Festival 2022

第64回 日本ジャーナリスト会議賞 第33回 アン・ジョンビル自由言論賞 第14回 福岡インディペンデント映画祭 最優秀ドキュメンタリー映画賞

標的

日時 2022年11月1日(火)
19:00~21:20 (18:30開場)

会場 大竹財団会議室
東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

参加費 一般=500円
学生・大竹財団会員=無料
定員20名【要予約】

主催 一般財団法人
大竹財団



Web予約
PC・モバイル共通
<https://bit.ly/3RpH5wb>

「安倍政治」との 闘いがはじまる

推薦
日本カトリック正義と平和協議会
自由法曹団
高麗博物館
日本基督教団東京教区北支区常任委員会
東京都退職女性教職員の家
日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク

監督・西嶋真司 配給・グループ現代
2021年/カラー/99分/ドキュメンタリー



権力を前にし萎縮して自主規制をはじめる大手マスコミ
民主主義の根幹を揺るがすジャーナリズムの危機に迫る

なぜ元新聞記者は“捏造記事”を書いたとして 激しいバッシングに晒されたのか——

1991年8月、元「慰安婦」だった韓国女性証言を伝える記事を書いた朝日新聞大阪社会部記者(当時)の植村隆は、その中で彼女が女子挺身隊の名で戦場に連行され、日本軍人相手に性行為を強いられたという証言を報じた。日本政府は、「慰安婦」が強制的に戦地へ送られたことを裏付ける資料が発見されていないとして、慰安婦の募集に国家や軍部が関与したことを否定しているが、安倍晋三衆院議員が政権に復帰した後となる2014年以降、一部から「捏造記者」と彼への執拗なバッシングが始まった。植村を「売国奴」「国賊」「反日」などと非難する誹謗中傷は次第にエスカレートし、彼が教職に就くことが内定していた大学、そして家族までもが卑劣な脅迫に曝された。この韓国女性証言が名乗り出た後、他のメディアも同じような記事を書いた中、なぜ彼だけが「標的」にされたのか? 一方、不当な攻撃によって言論を封じ込めようとする動きに対抗するために、大勢の市民や弁護士、マスコミ関係者らが支援に立ち上がった。

監督…西嶋真司 / 出演…植村隆 / プロデューサー…川井
田博幸 / 撮影…油谷良清、西嶋真司 / 音楽…竹口美紀 /
演奏…Viento / 歌…川原一紗 / 監修…佐藤和雄 /
法律監修…神原元、小野寺信勝 / 配給…グループ現代 /
2021年 / 99分



上映会のご予約・お問い合わせ

一般財団法人 大竹財団

📍 東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階
JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)、
東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分
🌐 <https://ohdake-foundation.org> ☎ 03-3272-3900



Google
マップ
QRコード

スマートフォンのQRコードアプリで読み取ると、現在地から会場までのアクセス方法が検索できます

